

水稻二期作のための水管理に関する研究

西 尾 敏 彦

熱帯農業研究センター

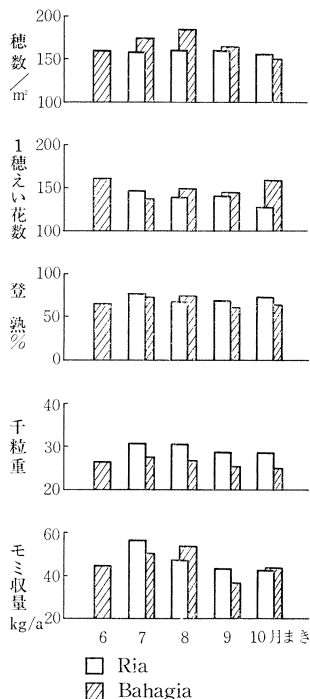
駐在場所：Rice Production and Training Center
Telok Chengai, Alor Star, Kedah,
West Malaysia

駐在期間：1970年4月～1972年2月

研究協力者：S. S. Joseph (Telok Chengai)
Koh Ah Kow (Bumbong Lima)

水稻作季の移動に関する試験

従来ムダ河灌漑地区では品種 Bahagia を用いた9月まき～1月収穫の Main season cropping (雨季作) と3月まき～7月収穫の Off season cropping (乾季作) が奨励されて来た。しかし同地区での灌漑計画を円滑化し、大型作業機・乾燥施設を導入するためには Main season, Off season のそれぞれにいくつかの作季を組合せることがのぞましい。収量・品質についても検討を要する。



第1図 作季試験の収量とその構成要素
(中間結果)

試験の方法

- 1 試験場所 Telok Chengai R.P.T.C 構内のケージ
- 2 供試品種 Bahagia および Ria
- 3 は種期・移植期 毎月1日まき、同月26日移植
- 4 1区面積および反覆 1区 900 ft² 反覆なし
- 5 その他いずれも当地の慣行による
- 6 調査項目 用水量とその構成要素(蒸発散・浸透), 畑作業量と作業に関係する要因(雑草発生量・土壌硬度・収穫時稲体水分など), 生育解析, 収量およびその構成要素

現在までの試験経過

1970年6月開始, 現在2年目に至る。ただし70年12月～71年3月は旱魃, 鼠害のため試験を放棄した。収量の中間結果は第1図のとおりである。

浅水間断灌漑に関する研究

ムダ河灌漑地区水田では, 通常 15～23cm 程度の深水が多い。これは雑草の発生を抑制し, 複雑な水管理を必要としない利点があるが, 反面灌漑水の損失が大きい。また, 水稻の生育を抑制し, 機械作業にも障害となる。当地における浅水間断灌漑の可能性を知る。

試験の方法

- 1 試験場所 Alor Star 郊外の農家圃場および Bumbong Lima 農試
- 2 灌漑処理の方法

移植期 有効分けつ 出穂期 収穫期
決定期
間断灌漑区 |-----|
慣行灌漑区 |-----|

- 3 施肥法 チッソ (Lb/ac)

	元肥	穂肥(1)	穂肥(2)	穂肥(3)	計
追肥重点区	45	15	30	30	120
元肥重点区	45	—	30	15	90

注) 穂肥(1) えい花分化期, 穂肥(2) 減数分裂期
穂肥(3) 穂揃期

- 4 1区面積および反覆 1区 1/4～1エーカー,